

令和2年度 ビジネス実務学科FD研修会報告

目的 ビジネス実務学科の学位プログラムレベルと科目レベルで学修成果の達成状況を評価し査定（アセスメント）することにより、教育の改善を図る。

日時 令和2年9月15日 15:20～16:20

場所 H102（医療健康学部棟1階）

出席者 井戸、越野、坂上、廣瀬、藤元、若月、丹羽

欠席者 加藤博

講師 藺森、瀬戸、矢澤

1 2020年度前期授業アンケートにおける学科別評価ポイントの比較（藺森）

2020年度前期授業アンケートにおける項目別評価結果について、資料に基づき、3学科間の比較を行った。

まず、総合評価を見ると、Q10「総合的に見て、この授業は良かったですか？」の問いに対して、ビジネス実務学科のポイントが4.5であるのに対し、美術学科、幼児教育学科はそれぞれ4.6、4.7であり、ビジネス実務学科は美術学科より0.1ポイント、幼児教育学科より0.2ポイント低い結果となっている。

各項目別に見ると、特に幼児教育学科との差が大きかった項目は、Q3「本授業を受けて、さらに学びたいと思いますか？」とQ9「本授業を通して、心に響く言葉や良い学びがありましたか？」であり、ともに0.4ポイントの差がついている。ビジネス実務学科は演習系の科目が多いことも影響していると思われるが、学ぶ意義や喜びを学生に伝えられるよう工夫する等、改善策を検討する必要があるとの意見が出された。

次に、1年生と2年生の評価結果を比較すると、総合評価では、1年生が4.6ポイントであるのに対し、2年生は4.3ポイントであった。また、Q3「本授業を受けて、さらに学びたいと思いますか？」については、1年生が4.4ポイントであったのに対し、2年生は4.1ポイント、Q9「本授業を通して、心に響く言葉や良い学びがありましたか？」については、1年生の4.3ポイントに対し、2年生は4.1ポイントと、いずれも2年生の評価の方が低くなっている。今後もこのような学年別の評価の推移に注視し、学年によって評価に差が生まれる要因がどこにあるのかも究明していく必要がある。

このように、他学科と比べ評価が低くなっている項目や学年別の評価の差等について意見交換を行うとともに、今後、この結果を踏まえて、それぞれの科目において、授業改善を行っていく必要があるとの認識で一致した。

2 シラバスの成績評価方法について（瀬戸）

2019年度、および2020年度のシラバスにおける成績評価方法について意見交換を行った。

まず、2019年度の開講科目数138科目に対して定期試験を行うと明記されているものは69科目の50%となっている。一部の科目には定期試験を行うと明記してあるのにすべてレポートなどで評価を行っている記載ミスがあった。また、ある科目ではレポートだけで100%の評価をつけている事例もあり、学生の学修意欲の向上と学習成果の獲得のためには、複数の評

価方法を組み合わせた多面的な評価を検討することが望ましいという意見が出た。

次に2020年度のシラバスにおいては、全開講科目137科目に対して定期試験の実施は69科目の50.4%で昨年と同等の定期試験実施状況となっている。2020年度前期は遠隔授業も実施していることから毎回の課題提出など、多方面の評価を検討することで学生への学習意欲を向上させ、学習成果の獲得につながる工夫が必要との認識で意見が一致した。

3 科目別評定（S～D）の分布状況とGPAから見る評価の妥当性（矢澤）

3月の同内容のFDでは、履修者数が少なければ誤差が大きくなるものの、おおむね「Sは10%」程度をめざし、「GPA科目平均は3」程度をめざすという認識が提示されたが、今年度前期の結果からは、これに該当しない科目が散見された。Sの割合が例年よりも多かった科目の例として、受講者の意欲態度が大変によく、授業運営が例年になくうまくいった科目である。

このような科目については、無理にSの比率を下げるような要請はしばらく、結果として、絶対評価の方針は変えないものの、今後も成績分布の分析は必要であるという意見で一致した。

